

うどん店も対策に余念がない。7日に営業を再開した「たも屋」（高松市）は座席数を半分に減らして客同士の密接を防いだり、使い捨てのビニール手袋を着用して天ぷらや薬味を取るよう協力を呼び掛けたりしている。

「マスクを付けたお客さんが減ってきたように感じる。大なり小なり第2波はくる。緊張感を持って営業していく」と話すのは、たも屋本店の丸川孝店長（40）。高松市の40代男性会社員は「最近は対面にならないカウンター席に座る人が目立つ。気軽に飲食店に行ける日が早く来ればいいが」と語った。